

図画工作科題材構想シート（絵や立体、工作に表す活動）

題材名	対象学級	年 組	児童数	名
担当者				

① 題材の目標

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等

② 対象や事象を捉える造形的な視点 〔共通事項〕ア

形、形の感じ (形状、大きさ、長さ、形の柔らかさ)
色、色の感じ (明るさ、鮮やかさなど)
材料の性質 (触った感じ、硬さ、柔らかさ、量感)
表面の材質感 (冷たい、暖かい)
形や色の組合せによる感じ (色の組合わせによる優しさ)
立体感、遠近感、奥行き感
動き (方向感、時間的な変化の動き、バランス)

③ 材料や用具

1・2 学年	土	粘土	木	紙	クレヨン
	パス	はさみ	のり	簡単な 小刀	
3・4 学年	木切れ	板材	釘	水彩絵 の具	小刀
	使いやすい のこぎり	金づち			
5・6 学年	針金	糸のこ ぎり			

④ 児童の活動のイメージ(ウェビング)

⑤ 指導の手立て

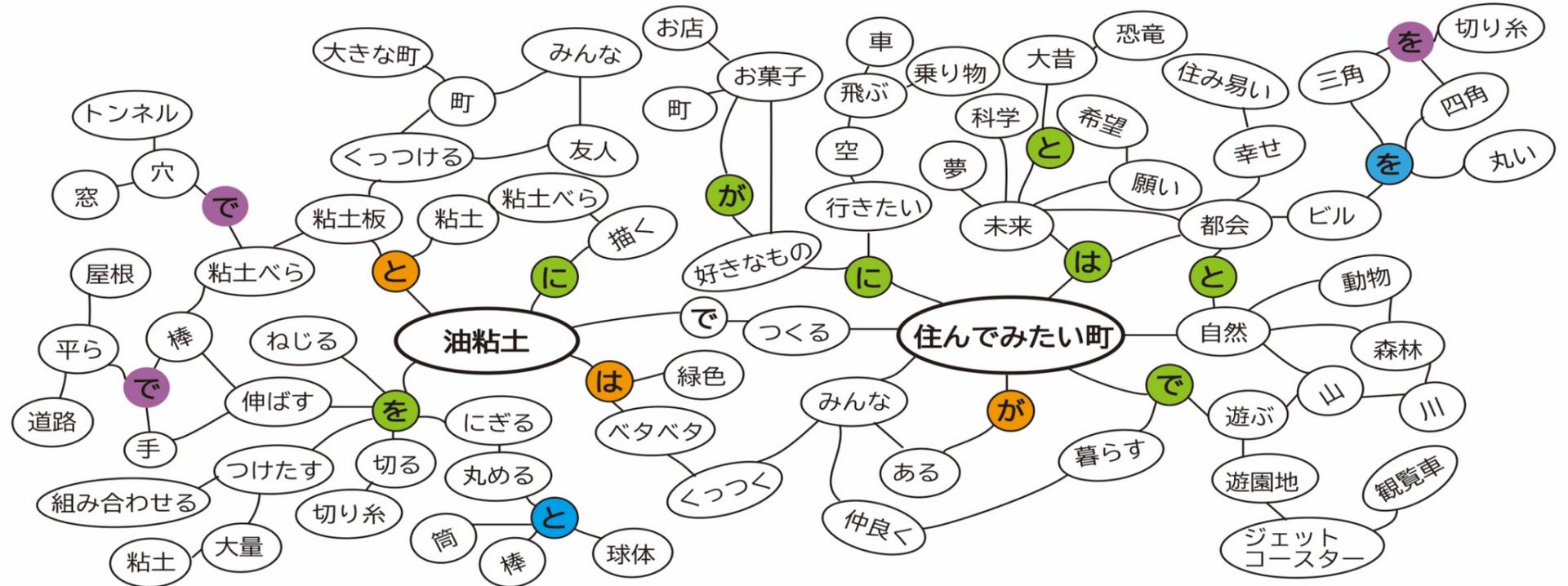
○問い (文言を書き出す)	○環境 (必要な材料や用具の準備と配慮を書き出す)
---------------	---------------------------

図画工作科（絵や立体、工作に表す活動）の題材構想の手順

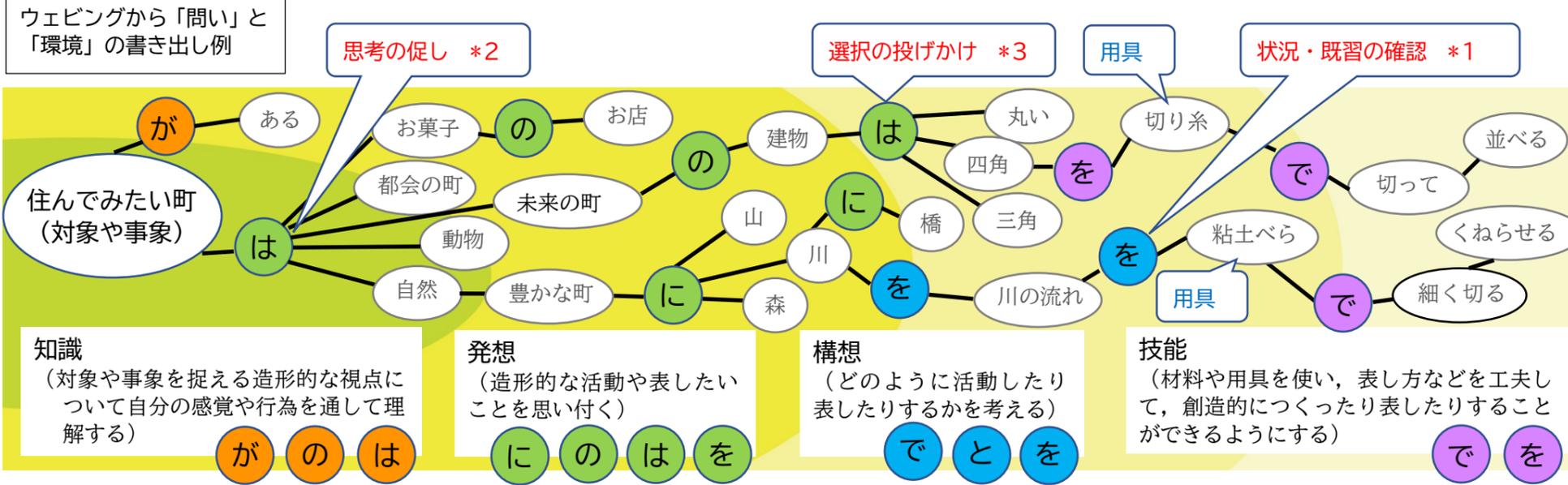
作成手順

- ① 学習指導要領の各学年の目標や内容を踏まえて「題材の目標」を作成する。
- ② 表面①の 題材の目標の「知識及び技能」の欄に記載されている材料や「思考力、判断力、表現力等」の欄に記載されている「対象や事象」(材料や作品、出来事など)を確認する。
表面②の「対象や事象を捉える造形的な視点」により、児童が直感的に対象の特徴を捉え、同時に自分なりのイメージをもちながら活動することを確認する。
- ③ 表面①の題材の目標に記載されている「材料や用具」を表面③の表から確認する。また、③の表は、学習指導要領の内容の取扱いと指導上の配慮事項に記載されている「材料や用具」であるため、積極的に取り扱う。また、その他活動に必要な材料と用具を加えていく。
- ④ 目の前の児童をイメージしながら、材料やテーマといった対象や事象を中心に置いて、助詞を用いながら予想される児童の考えや活動などを書いていく。
(発想や構想をしたり、材料や用具を使い、表し方を工夫したりしていく活動へとイメージを広げていくが、技能から発想することもあり、必ずしも一方ではないことに留意する。)
- ⑤ 児童の考えや活動を関連付けた事柄の間に、「ゆさぶり」の機能を持った問いとしてどんな問いかけができるか表面の⑤指導の手立てに書き出す。また、児童の考えや活動を保証するために必要な環境(材料や用具)についても書き出す。

④ 児童の活動のイメージ(ウェビング)



ウェビングから「問い」と「環境」の書き出し例



⑤ 問いの種類と具体例

種類	内容	具体的な発問例
状況・既習の確認 *1	活動の進み具合、理解度、過去の学習内容等確かめる	川の流れをどのようにして作るのかな
思考の促し *2	表現や取組について問いかけ考えさせる	住んでみたい町はどんな町ですか
選択の投げかけ *3	選択肢を示して考えさせる	未来の町の建物はどんな形をしているのかな、丸いそれとも三角、四角